

2014年4月25日

株式会社 文藝春秋
週刊文春編集長 新谷 学 様

食のコミュニケーション円卓会議
代表 市川まりこ
<http://food-entaku.org>

週刊文春 4月17日、4月24日の連載記事についての質問書

私たちは「食の問題についてより良いコミュニケーションを育みたい」との思いから主婦、事業者、研究者、教育者、メディアや行政関係者など様々な立場のメンバーが互いに学びあうという精神で集い、科学的根拠に基づく学びや体験、対話の中から得られた成果を社会へ伝える活動を進めている消費者団体「食のコミュニケーション円卓会議」です。

「週刊文春」4月17日号、4月24日号「米国産危険食品で子供が壊れる」「遺伝子組み換え作物から子供を守れ」の連載記事について、いくつか事実誤認があると思われまます。下記の質問2点の回答と、下線部の表記（1～4）とした根拠について、5月9日までに回答をいただきたくお願い申し上げます。また、事実関係を確認の上、事実誤認であれば訂正等のご対応をお願い致します。

質問1

誤った情報を読者や社会へ発信した事について、貴誌は主要メディアとしての責任、社会的責任をどのように感じていますか。

質問2

「週刊文春」が目指す情報提供のあり方についてお考えをお聞かせ下さい。

下線部（1～4）の表記とした根拠をお示し下さい。

1. フランスのセラリーニ教授の実験結果と研究論文を用いて掲載した理由について

2012年に日本、EU、カナダなどの食品安全性評価機関が、科学的妥当性を否定しています。また該当論文を掲載した学術誌も精査し、その結果この論文を取り下げています。（参考資料1.2）この事実は今回の記事の中でも述べられているにも関わらず、その発表内容を研究者のインタビューと併せて掲載しています。

2. 「遺伝子組み換え作物（大豆）の長期試験はいまだ行われていない」

国際基準に基づいた遺伝子組み換え作物の安全性評価では、参考資料をご覧ください。日本では、東京都健康安全研究センター、社団法人日本科学飼料協会が試験結果を公表していますが、いずれも悪影響などは報告されていません（参考資料 3.4.5）。

3. 「TPPでGM作物が大量にやってくる」

日本は年間で約 1,600 万トンの GM 作物（トウモロコシ、大豆、ナタネなど）を輸入しています。トウモロコシ、大豆、ナタネなどの作物は、遺伝子組み換えかどうかに関係なく従来からほとんどが無税で輸入されています。すでに輸入量の約 70～80%が遺伝子組み換え作物になっており、仮に TPP で関税引き下げになっても遺伝子組み換え作物の輸入量が極端に増えるとは考えられません。（参考資料 6.7.8）

4. 「GM トウモロコシは中性脂肪を増加させるという動物実験がある」

私たちが専門家に問い合わせたところ、ご指摘のような実験結果は見つかりませんでした。

【意見】

遺伝子組換え農作物について、消費者の中には不安や懸念を持っている人もいます。消費者は、情報の多くをテレビや新聞等のマスメディアから得ていますので、記事を書いたり、情報を社会に送り出す立場にある人の社会的責任は重いと考えます。科学的根拠に基づいた良質の情報を、分かりやすく伝える役割をしっかりと果たしてほしいと思います。

この質問書は、御社にお送りするとともに、情報を共有するために、食のコミュニケーション円卓会議 HP に掲載致します事をご了承ください。なお、回答の有無につきましても掲載していきます。

連絡先 食のコミュニケーション円卓会議

【参考資料】

(1) 食品安全委員会：平成 24 年 11 月 12 日：「除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統の毒性発現に関する論文に対する見解」

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kai20121112sfc&fileId=54>

(2) Elsevier Announces Article Retraction from Journal Food and Chemical Toxicology

<http://www.elsevier.com/about/press-releases/research-and-journals/elsevier-announces-article-retraction-from-journal-food-and-chemical-toxicology>

(3) 厚生労働省医薬食品局食品安全部：「遺伝子組換え食品 Q&A（第 9 版）」

<http://www.mhlw.go.jp/topics/idenshi/dl/ga.pdf>

(4) 東京都健康安全研究センター「遺伝子組換え大豆の F344 ラットによる 104 週間摂取試験」（食衛誌 Vol49, No4）

http://altmetrics.ceek.jp/article/www.jstage.ist.go.jp/article/shokueishi/49/4/49_4_272/article-char/ja/

(5) 社団法人日本科学飼料協会「家畜・家禽に対する遺伝子組換え飼料の給与試験」

<http://kashikyo.lin.gr.jp/network/sonota/GMO/GMO.pdf>

(6) 財務省貿易統計 実行関税率表（2012 年 1 月版） 第 2 部植物性生産品 第 10 類 穀物

http://www.customs.go.jp/tariff/2012_1/data/i201201j_10.htm

(7) 財務省貿易統計 実行関税率表（2012 年 1 月版） 第 2 部 植物性生産品第 12 類 採油用の種及び果実、各種の種及び果実、工業用又は医薬用の植物並びにわら及び飼料用植物

http://www.customs.go.jp/tariff/2012_1/data/i201201j_12.htm

(8) 食のコミュニケーション円卓会議

<http://food-entaku.org/gmo1.htm>

2014年4月25日

株式会社 文藝春秋
代表取締役社長 平尾隆弘 様

食のコミュニケーション円卓会議
代表 市川まりこ
<http://food-entaku.org>

週刊文春 4月17日、4月24日の連載記事についての質問書

私たちは「食の問題についてより良いコミュニケーションを育みたい」との思いから主婦、事業者、研究者、教育者、メディアや行政関係者など様々な立場のメンバーが、科学的根拠に基づく学びや体験・対話の中から得られた成果を社会へ伝える活動を進めている消費者団体「食のコミュニケーション円卓会議」です。

御社の「週刊文春」4月17日号、4月24日号「米国産危険食品で子供が壊れる」「遺伝子組み換え作物から子供を守れ」の連載記事について、事実誤認があると思われる。下記の質問2点の回答と、下線部の表記（1～4）とした根拠について、5月9日までに回答をいただきたくお願い申し上げます。

また、事実関係を確認の上、事実誤認であれば訂正等のご対応をお願い致します。

質問1

誤った情報を読者や社会へ発信した事について、御社は主要メディアとしての責任、社会的責任をどのように感じていますか。

質問2

文藝春秋社が目指す情報提供のあり方についてお考えをお聞かせ下さい。

下線部（1～4）の表記とした根拠をお示し下さい。

1. フランスのセラリーニ教授の実験結果と研究論文を用いて掲載した理由について
2012年に日本、EU、カナダなどの食品安全性評価機関が、科学的妥当性を否定しています。また該当論文を掲載した学術誌も精査し、その結果この論文を取り下げています。（参考資料1，2）この事実は今回の記事の中でも述べられているにも関わらず、その発表内容を研究者のインタビューと併せて掲載しています。

2. 「遺伝子組み換え作物（大豆）の長期試験はいまだ行われていない」

国際基準に基づいた遺伝子組み換え作物の安全性評価では、参考資料をご覧ください。日本では、東京都健康安全研究センター、社団法人日本科学飼料協会が試験結果を公表していますが、いずれも悪影響などは報告されていません（参考資料3，4，5）。

3. 「TPPでGM作物が大量にやってくる」

日本は年間で約1,600万トンのGM作物（トウモロコシ、大豆、ナタネなど）を輸入しています。トウモロコシ、大豆、ナタネなどの作物は、遺伝子組み換えかどうかに関係なく従来からほとんどが無税で輸入されています。すでに輸入量の約70～80%が遺伝子組み換え作物になっており、仮にTPPで関税引き下げになっても遺伝子組み換え作物の輸入量が極端に増えるとは考えられません。（参考資料6，7，8）

4. 「GMトウモロコシは中性脂肪を増加させるという動物実験がある」

専門家に問い合わせたところ、ご指摘のような実験結果は見つかりませんでした。

【意見】

遺伝子組換え農作物について、消費者の中には不安や懸念を持っている人もいます。消費者は、情報の多くをテレビや新聞等のマスメディアから得ていますので、記事を書いたり、情報を社会に送り出す立場にある人の社会的責任は重いと考えます。科学的根拠に基づいた良質の情報を、分かりやすく伝える役割をしっかりと果たし、読者の信頼に答えてほしいと思います。

御社ホームページ、社長平尾隆弘様の挨拶の中には読者の信頼に答えたいとの願いが書かれております。

この質問書は、御社にお送りするとともに、情報を共有するために、食のコミュニケーション円卓会議 HP に掲載致します事をご了承ください。なお、回答の有無につきましても掲載していきます。

連絡先 食のコミュニケーション円卓会議

【参考資料】

(1) 食品安全委員会：平成 24 年 11 月 12 日：「除草剤グリホサート耐性トウモロコシ NK603 系統の毒性発現に関する論文に対する見解」

<http://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kai20121112sfc&fileId=54>

(2) Elsevier Announces Article Retraction from Journal Food and Chemical Toxicology

<http://www.elsevier.com/about/press-releases/research-and-journals/elsevier-announces-article-retraction-from-journal-food-and-chemical-toxicology>

(3) 厚生労働省医薬食品局食品安全部：「遺伝子組換え食品 Q&A（第 9 版）」

<http://www.mhlw.go.jp/topics/idenshi/dl/qa.pdf>

(4) 東京都健康安全研究センター「遺伝子組換え大豆の F344 ラットによる 104 週間摂取試験」（食衛誌 Vol49, No4）

http://altmetrics.ceek.jp/article/www.jstage.ist.go.jp/article/shokueishi/49/4/49_4_272/article-char/ja/

(5) 社団法人日本科学飼料協会「家畜・家禽に対する遺伝子組換え飼料の給与試験」

<http://kashikyo.lin.gr.jp/network/sonota/GMO/GMO.pdf>

(6) 財務省貿易統計 実行関税率表（2012 年 1 月版） 第 2 部植物性生産品 第 10 類 穀物

http://www.customs.go.jp/tariff/2012_1/data/i201201j_10.htm

(7) 財務省貿易統計 実行関税率表（2012 年 1 月版） 第 2 部 植物性生産品第 12 類 採油用の種及び果実、各種の種及び果実、工業用又は医薬用の植物並びにわら及び飼料用植物

http://www.customs.go.jp/tariff/2012_1/data/i201201j_12.htm

(8) 食のコミュニケーション円卓会議

<http://food-entaku.org/gmo1.htm>